



特集 防災(後編)

被災地から学ぶ

山口は災害が少ない地域だと言われますが、災害が来ないということではありません。過去に水害や台風などにより、私たちの想像を超える甚大な被害がもたらされました。被災地に思いを馳せ、私たち一人ひとりができることを考えてみませんか。

みんなが主役！誰もが心豊かに暮らせるまち山口を目指して、はじめの一步を応援する市民活動情報紙

ええやんヒーロー

誰かのために 何かのために 活動している人を紹介します

Vol.17

りす会山口 代表

かねこ ひさのり

金子寿徳さん

1964年生まれ。山口市阿東出身、在住。山口県内の専門学校を卒業後、長野県で果樹を学び、地元で農協に就職。10年間勤めた後、現在の職業である、公立高校の農業科目の教員となる。2009年7月の中国九州北部豪雨災害をきっかけに、日本赤十字社の防災奉仕団に入る。その後、りす会山口に参加し、後に代表を引き継ぐ。防災士、山口災害救援のメンバーでもある。

ブログ「りす会山口(あらいくま作戦 in 山口)」
http://yamaraiguma.blog.fc2.com/



一枚一枚丁寧に写真を洗うボランティアのみなさん



山口から届け！ 復興への願いを 写真洗浄に込めて

東日本大震災後、高校の教員をしながら、日本赤十字社の防災奉仕団員としていち早く被災地の支援活動を始めた金子さん。写真洗浄や防災啓発活動、自ら足を運んでの東北の人たちとの交流など、今なお続く活動についてお話を伺いました。

1カ月後東北へ
東日本大震災が起きた後、日赤からの派遣で、宮城県亘理町へ行きました。ここではボランティアセンターの運営に携わり、マスクの装着やけがの処置などの衛生管理をしていました。時間が空いたときには現場に出て、津波被害にあった家屋の家具の搬出などを手伝いました。このとき1カ月ほど経ってしまいましたが、まだ手つかずのところが多くあり、被災した家の人は、落ち込んでいる場合が多い。とりあえず出してもらわなければならない...といった様子で、憔悴する暇もなく淡々と復旧作業をこなしていました。

山口でもできる活動
山口に戻るとすぐ新学期が始まり、仕事も忙しく、被災地への活動がなくなってしまった。でも、被災地への活動がなくなってしまった写真の土砂などを落とし返却する活動です。写真洗浄を始めた頃は、生きていく人々のためにと、秋頃に、りす会山口が周南市でやっている写真洗浄というボランティア活動を見つけた。翌年の3月にりす会山口の代表となり、現在、周南を本拠地に、山口市阿東でも活動をしています。

写真洗浄活動は、災害によって傷ついてしまった写真の土砂などを落とし返却する活動です。写真洗浄を始めた頃は、生きていく人々のためにと、秋頃に、りす会山口が周南市でやっている写真洗浄というボランティア活動を見つけた。翌年の3月にりす会山口の代表となり、現在、周南を本拠地に、山口市阿東でも活動をしています。

写真洗浄活動は、災害によって傷ついてしまった写真の土砂などを落とし返却する活動です。写真洗浄を始めた頃は、生きていく人々のためにと、秋頃に、りす会山口が周南市でやっている写真洗浄というボランティア活動を見つけた。翌年の3月にりす会山口の代表となり、現在、周南を本拠地に、山口市阿東でも活動をしています。

これまで5年間で、写真洗浄を手掛けた枚数は5万5千7枚にもなり、約2300人の方が、被災地のために...と、携わってきました。ボランティアには、学生や、東北まで行けなくても、山口に居てもできるからと参加してくれる人、現地で力仕事はできないけれど、写真洗浄なら力になれそうだからと、女性の参加も多くありました。

りす会山口のこれから
東日本大震災の写真洗浄活動は、一昨年無事に終わることができました。現在、写真返却会場などで、8割の写真が返却されたとの報告を受けています。今後も要望があれば、人材もノウハウもあるのです。この活動を続けていきたいです。

そしてこれからは、防災啓発活動に力を入れていきたいです。講演会などで被災について語る話をしています。また、外部講師として学生にボランティア論を話すこともあり、災害が起きた時に自分は何ができるか?を覚えてもらうために、いろいろなボランティアがある中で、写真洗浄活動があることを伝えています。

私に何ができる?
東北には今でも足を運んでいて、昨年のゴールデンウィークには現地で瓦をばらばら作って食べてもらい、10月には、地元の方のいしはらご飯を食べさせてもらいました。来てくれるのが何よりうれしいとの声があり、このような交流の輪が被災地の力になっているのだと感じています。私のりす会山口での活動の原点は東北であり、この被災地との交流はこれからも続けていきたいです。

こうして東北に行くことによって復興につながっていくというですね。「復興」と一言でいっても、一人ひとりの復興はそれぞれ違うと思います。元生活に戻るものが復興でも完全に元に戻ることはなかなか難しいです。私にできることは、また現地に足を運ぶことで気持ちに寄り添うことかな。

2009年7月21日の中国九州北部豪雨災害の際、私の担当地区では、家屋の被害は数件にとどまりましたが、田畑の被害は甚大でした。道路が分断され、孤立した5集落の住民は、山口県のみならず近隣の防災ヘリなどで救出保護されました。指定避難所の小鯖小学校体育館は、8月6日に避難指示が解除されるまで、いっばいの状態でした。その後、家に帰る人、親戚のところに行く人で徐々に少なくなり、避難所が、まだ帰れない人がいると思ひ、避難所開設中は私も残り続けました。他地区の民生委員さんも手伝いたいと言ってくれましたが、知らない人だと警戒されるので、この時はお断りできませんでした。民生委員のベストやジャンパーを作って、誰にでもわかるようにしたのは、この時の教訓です。また、災害以前に作った災害者支援カードも、実際の災害を経てより使いやすさにも見直しました。

日頃の民生委員の活動では、避難時要支援者を意識して見守り活動をしています。名簿に記録するだけでなく、その人を知ること、声かけや訪問などで信頼してもらえようという心がけています。高いところの掃除や草刈りなど、普段できないことをするボランティアサービスでも、ボランティアさん



取材協力 小鯖地区民生委員児童委員協議会

ん付き添い顔の見える関係づくりをサポートしています。

被災したことでいろいろなことを学びました。避難所ではまず水が必要でした。飲料水だけでなく、トイレや洗面などの生活用水が必要でした。避難所に避難してきても、断水や停電は自宅と同じです。それでも命を持つて集まれば何とかなるものです。人は助け合えます。自分に何ができるかを常に考えておくことも大事です。頭の中でコミュニケーションができていないと何もできません。自主避難をしてきて、実際には何も起きなくても、避難をしたことで安心できる環境づくりが大切です。

地域レポート 小鯖青編

小鯖地区民生委員児童委員協議会会長 米本 律子さん

小鯖地区で約20年民生委員をされている米本さん。民生委員として日頃から心がけていること、災害時にできることなどを伺いました。



山口市市民活動支援センター

さぼらんてとは

2001年12月より山口市中心商店街に設置されている公設民営型(行政設置・民間運営)の施設です。

さぼらんては、誰もが心豊かに暮らせるように「誰かの困りごとをほっておけない!」「やまぐちをもっと元気にしたい!」と自ら気づき・考え・行動する市民活動を応援するとともに、市民のまちづくり参加のきっかけづくりをしています。詳しくはHPをご覧ください。

URL <http://www.saporant.jp/>

『ええやん新聞』では、一般公募による市民が記者となり、身近な取り組みや市民活動を紹介しています。(年2回発行)

リカバリーピザ

おやつにも朝ご飯にも♪

調理ボランティアで活躍中の三木さんは、戦前戦後の物がない時代を生きてきた世代。物を捨てない、食材を使い切る、あるもので工夫するという意識が、日々の体験を通して身についていたそうです。まずは冷蔵庫の中から「復興」させてみませんか?

材料(1人分)
残り物の餅(冷凍でも可) 1個
ぎょうざの皮 4枚
ピザソース(なければケチャップ) 適量
加熱した残り物の野菜(ミックスベジタブルでも可) 適量
とろけるタイプのチーズ 適量

作り方
①餅を解凍して4つに切る
②ぎょうざの皮にピザソースを塗り、餅、野菜、チーズをのせて具材がこぼれないように成形する
③オーブントースターで3~4分程度焼く(フライパンなら弱火で5分程度)

レシピ提供・協力
三木静江さん
山口市白石在住

あたたかいうちに召し上がれ♪

クイズに答えて小鯖の逸品 鳴滝の糸 をもらおう

福島く山口のいのちの会が福島の子どもたちの自然体験を支援する活動は?

7名様
締切 2018年5月31日

宛先はこちら
〒753-0047 山口市道場門前1-2-19 さぼらんて
TEL 083-901-1166 FAX 083-901-1165 メール saporant@c-able.ne.jp
左のQRコード、FAX、メール、はがきにてご応募ください。

以下を明記のうえ、ご応募ください。
1. お名前・ご住所・年齢・職業・電話番号
2. クイズの答え
3. ええやん新聞に手を入れた場所
4. 取り上げて欲しいテーマ、市民活動団体
5. ええやん新聞17号へのご意見、ご感想

田中 女性防災士さんのお話を参考に、すね、防弾チョッキを着たいと思っています。

私答 ええやんを通して出会った人たちは、みな素敵な方々でした。これからもがんばります。

藤岡 2009年7月、自宅のギリギリまで川の水が迫り、1週間の断水に追い込まれた「うちにお風呂に入りたてたい」と思っていたら、お風呂に入りに来たお風呂の湯が冷たくなってしまった。お風呂の湯が冷たくなってしまった。お風呂の湯が冷たくなってしまった。

さぼらんて小鯖のフルタイムボランティアの自然体験を支援する活動は?をお寄せください!

次号もお楽しみに♪

命を守るために今、できること ～被災地の犠牲を無駄にしないために～

「東北の犠牲を無駄にするな！」会場を凍りつくすように、陸前高田市防災士の震え交じりの怒号が響いた——2014年3月14日の伊予灘地震で震度5弱が観測された広島。その数日後に行われた防災講演会にて「災害に備えていた人は手をあげてください」という防災士の問いかけに対し、手があがったのが約300人の中のとたった数人という現実を受けての出来事でした。
東日本大震災で犠牲になった方は19,575名。そして2,577名の方が行方不明です(2017年9月1日時点、総務省消防庁HPより)。熊本や九州北部でも未だに避難所生活を余儀なくされている人がいます。過去の経験を活かすために、私たちに何ができるのか。防災から復興まで、自分の経験やさまざまな思いを胸に被災地支援活動に携わってきた方々にお話を伺いました。



防災士 上野道博さん
山口災害救援所所属
山口災害救援ブログ
<https://ameblo.jp/yamasaigai/>



命がありさえすれば…

上野さんはどんな活動をされていますか？
私は「天理教災害救援ひのきしん隊」という団体に所属して、被災地で人命救助後に行う災害復旧ボランティアに携わっていました。全国いくつもの被災地を飛び廻り、崩れてしまった家の修復やがれきの片付けなどをさせてもらっていました。そして現在は、山口災害救援(以下、山災)で被災地へさまざまな支援をしています。個人としては、学校防災アドバイザーや出前講座の講師をしています。山口災害救援はどのような団体ですか？
国内で災害が起こった時に横の連携を取ったり、被災地支援、防災啓発、災害ボランティアセンター運営スタッフの養成、全国災害ボランティアグループのネットワーク作りなどを行っています。山災は2017年11月現在、私や金子さん(1面参照)など山口の災害救援をリードする34名のメンバーが登録しています。上野さんが考える復興とは？
私が主に携わってきた「復旧」は、復興への土台作りの作業。まずは生活基盤を整えることで復興へとつながっていきます。今、私たちがすべきことは自分自身の「命」を守ることで、命がありさえすれば物の被害は必ず復興できますからね。

命を守るためにできることは？
災害が来たらどうしよう、過度に怖れなくしていいんです。今できることを考えて、今のうちに準備しておけばいいんですから難しく考えなくても大丈夫。「自分がいる場所がどうなのか」を確認して、そこからは逃げるべきなのか、留まる方がいいのか、津波は来るのか来ないのか、何に対して強いのか、弱いのかを知っておく。そして、普段から地域の人と挨拶をする、すぐ逃げられるように靴を揃える癖をつけておく、食べられなかったら半日以上空腹になるから朝ご飯は必ず食べておく。たったそれだけの生活習慣が「防災」につながるのです。



2013年秋市須佐にて、土砂を掻き出す復旧作業の様子

防災

女性だからできること

里帰り出産で帰省していたとき、阪神淡路大震災に遭いました。生後1カ月の娘の夜泣きがその日に限ってひどく、みんなが起きていたことで難を逃れました。私の命は娘に助けられたと思っていました。子育てが落ち着いたころ、せつかく生かされたのだから何かの役に立ちたいと思い、幼稚園などで防災訓練の講習・啓発を行う消防団予防隊に入りました。今は防災士として地域の自主防災組織にも入り、普段の仕事の傍ら、防災活動のほか防火訪問、消火の補助などを行っています。
防災士として活動する中で、女性だから気づくこと、気を遣えることがあります。非常時だからこそ、普段と同じように少しでも気分を向上させるようにと、私は自分の防災リソースには髪を束ねるゴムや肩ペンなどを入れています。避難生活がどれだけ長引くかわかりませんが、小さな

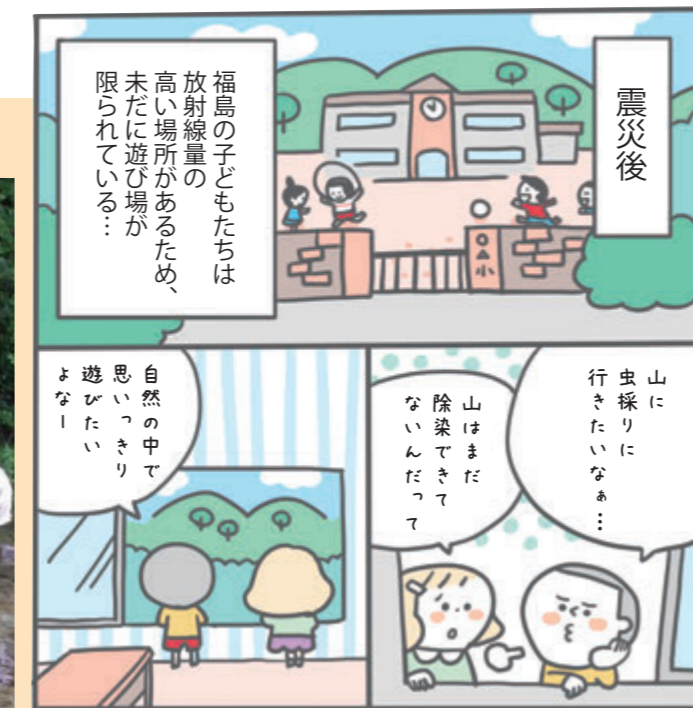
気づきを細やかな配慮につなげる。避難所運営に女性が入ることで、子どももお年寄りも一人ひとりがマンパワーとして活躍できたり、女性目線で防犯対策を行ったりすることもできます。日々の仕事や家事、育児で培われた柔軟な発想、対応こそ非常時に求められる力だと思います。防災は特別なことではありません。自分ができることを少し意識し、世間話のネタにも防災を取り入れてほしいと思います。



防災士 本弘香代さん
兵庫県姫路市出身
山口市平川在住



人命救助 72時間



震災後
福島の子どもたちは
高い場所があるため
未だに遊び場が
限られている…

山には
虫採りに
行きたくないな…
山はまだ
陰鬱で
なんでも
遊ばない
自然の中で
思いっきり
遊ばない

復旧期



福島、山口のちのちでは
福島の子どもたちの
自然体験を支援する
「保護活動」を行っています

川遊びできて
うれしー！

復興期

3.11立ち止まって振り返るきっかけに



クワシー優子さん
山口市白石在住
カメラマン

東日本大震災の時、私は神奈川県に住んでいました。長男が3歳のころです。震度3、4の余震も頻りにあり、海が近かったため、心配で夜も眠れない日々が続きました。体力に限界がきていたこともあり、地元山口に帰ることを決めました。帰ってきてからも1年ぐらいは、揺れに敏感で、何か起きるんじゃないかと安心して眠ることができませんでした。当時は地震の方が怖くて帰ることを決めましたが、後々、原発の状況を知るにつれ原発に対する怖さが増していきました。

そんな中、カメラマンという職業が縁で被災地を伝える写真の展示会に関わり、多くの人々が東北に関心を寄せていることが分かりました。このことがきっかけにも何かできるのではないかと考えるようになり、震災の翌年から3月11日に東北応援プロジェクトを行うようになりました。7年経った今でもあの時感じた怖さを覚えています。今、被災地で生活されている人たちの思いを全て理解することは容易ではないかもしれませんが、3月11日は日々の生活の中で忘れがちなことや、当時を思い出して考える、立ち止まって振り返る日になればと思っています。

人とのつながりを感じて

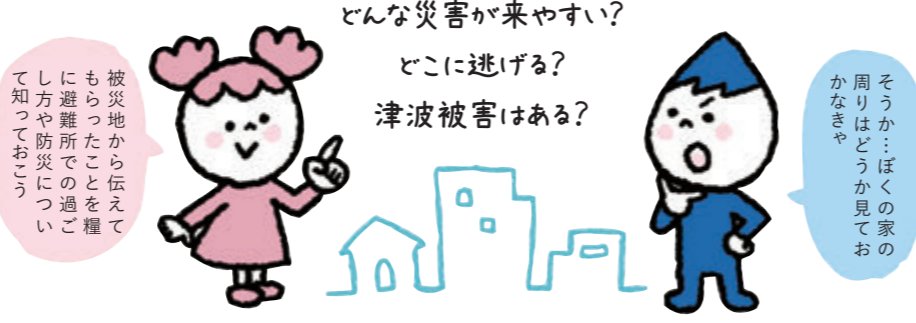
東日本大震災と福島第一原発の事故により、福島に住む人々の生活は一変しました。生活する場所を失っただけではなく、土地を離れなければならなくなりました。健康被害が気になりつつも声に出せない人。心の不安を人と共有することができないまま日々の生活を送っている人。震災と原発は人と人とのつながりを分断しました。発災から7年が経ち、少しずつ震災や原発に対する関心や反応が薄れてきていると感じることがありますが、福島の人たちにとっては今なお続いているのです。この保養活動が少しでも子どもが子どもらしい体験をしたり、お母さんたちに安心を届けたり、人とのつながりを感じられる一助となればと思っています。私たちが、この保養活動をこれから30年先も続けることを目標にしています。継続のためにはマンパワーが必要です。自分たちができることで無理なく参加できる仲間を募集しています。夏に行っている保養活動に私たちが一緒に参加してみませんか？

福島～山口 いのちの会
代表 村上竜司さん
TEL 090-2007-3201(村上)
ブログ 「福島～山口 いのちの会のブログ」
<https://ameblo.jp/fukushima-yamaguchi/>



自分の地区はどんな危険がある？

山口市のHPでハザードマップをチェックしてみよう！
<http://www.city.yamaguchi.lg.jp/soshiki/4/2854.html>



被災地から伝えてもらったことを糧に避難所での過ごし方や防災について知っておこう

そうか、ぼくの家の周りはどうか見ておかなきゃ



平常時



災害時

写真提供 小鯖地区づくり協議会

私たちに何ができるのか？ 災害ボランティアに出向くこと、義援金を送ること、被災地を偲ぶこと…一人ひとり違います。しかし、個々がなくてはならないのは、自分自身の防災の基盤づくりです。「知る」「見る」「伝える」ことで、万が一の災害に備え、新たな犠牲を出さないために私たち一人ひとりが命を、まちを守っていく。被災地から学んだことを無駄にせず活かしていくこそが、被災地の復興の力にもなるはず。